

施設名称：大阪府立近つ飛鳥博物館等	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	所管課：大阪府教育庁 文化財保護課
-------------------	-------------------------------	--------------------------------------	-------------------

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （1 1 月記入）		施設所管課の評価 （1 2 月記入）			評価委員会の指摘・提言	
		評価 S～C	評価 S～C	H29 評価	H30 評価	評価 S～C		
<p>一 提案の履行状況に関する項目</p> <p>(1) 施設の設置目的及び管理運営方針</p>	<p>◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか</p> <p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>・大阪府内所蔵資料の公開</p> <p>○豊富な資料の活用</p> <p>・大阪府文化財センター所蔵資料の公開</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>・館報の刊行 1 回</p> <p>・図録の刊行 2 回</p>	<p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>常設展示室内・特別展示室内、収蔵庫の温湿度（一部については照度）を 24 時間データ集積し、目視点検とともに保存環境の変化を監視。国重要文化財「修羅」の点検を 3 月に予定。紫金山古墳・南塚古墳出土品の保存状態点検を 11 月に実施し、異常の無いことを確認。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>校外学習の受け入れや出前授業を実施した。学芸員や教育専門員が具体的な素材を用いてわかりやすく解説することにより、社会教育施設である博物館の役割を果たし、歴史・文化等に関する教育の充実に寄与した。</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>春季企画展「寛弘寺古墳群と紺口県主一古墳時代の地域と王権一」で寛弘寺古墳群を、夏季特別展「百舌鳥・古市古墳群と土師氏」で百舌鳥・古市古墳群を、秋季企画展「ヤマト王権とその拠点一政治拠点と経済拠点一」で大県遺跡・難波宮跡・上私部遺跡などを取り上げた。冬季企画展「歴史発掘おおさか 2019」では府内の最新発掘調査情報を公開する予定であり、計 4 回公開を行う予定である。</p> <p>○豊富な資料の活用</p> <p>夏季特別展で 2 件 3 点、秋季企画展で 8 件 85 点を公開した。また、冬季企画展でも 4 件 59 点を公開予定。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>『館報 23』を 3 月に刊行予定。</p> <p>図録 2 冊（夏季特別展、秋季企画展）、解説小冊子 1 冊（春季企画展）を刊行。</p> <p>冬季企画展についても図録 1 冊を刊行予定。</p>	A	<p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>温湿度管理や定期点検等により、資料の適切な管理・活用が行われている。また、ESCO 事業実施にあたっては、点検・監視等適切な対応により資料への影響が最小限に留められている。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>小中学校の受け入れ（21 回）、出前授業（44 回）、学校教育の発表の場の提供（2 回）等、計画どおりまたは計画を上回る実施状況である。</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>大阪府内の遺跡に関する企画展・特別展の開催により、府内所蔵資料の公開がなされている。また、当初予定にはなかった冬季企画展を開催する等、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○豊富な資料の活用</p> <p>企画展、特別展において数多くの大阪府文化財センター保管資料が展示資料として活用されている。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>小冊子の刊行、当初予定にはなかった冬季企画展での図録刊行等、評価基準を超える実施状況である。</p>	A	A	S	

	○国際的な研究交流・情報交換	○国際的な研究交流・情報交換 国内外の研究者と研究交流を行った。来館研究者144名（うち海外の研究者14名）。 ◎自己評価 当館保管資料の管理については、温湿度、照度の監視に心掛けた。当館の使命のひとつである古墳時代の理解を深めるため展覧会を開催し、各展覧会では来館者から好評を得た。学校教育への参加についての要望は引き続き多い。世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群についてもその資料の紹介に努め、資料を通じ、その重要性を紹介することができた。よって、本項目に対する達成状況はおおむね良好である。		○国際的な研究交流・情報交換 韓国等海外研究者を含む多くの研究者が訪れ、活発な研究交流が行われている。 ◎施設の設置目的及び管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。特に、学校教育への寄与、大阪の魅力の発信、調査研究による最新の成果の発信は計画を上回る実施状況であることから、全体として計画を上回っていると評価できる。また、資料の保管に関しても ESCO 事業で適切な対応がなされている。				
(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	◇公平なサービス提供と対応、障がい者・高齢者への配慮がなされているか ○高齢者、障がい者等への利用援助 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 ・子ども向け解説・リーフレットの提供等 20 回 ○外国人利用者へ配慮したサービスの実施	○高齢者、障がい者等への利用援助 支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で引率教員と協力して解説や体験メニューを実施した。障がい者の健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保した。 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 各展覧会で子ども向け解説パネルの作成を進め、12回の提供を行った。また、冬季企画展においても解説パネル・リーフレットを提供予定。 ○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 英語、中国語、韓国語による館内の案内を配布するとともに、音声ガイドの利用を積極的に案内した。また特別展において一部のキャプションに英語表記を加えた。 ◎自己評価 支援学校の校外学習では生徒の状況にあわせ、施設利用できるよう柔軟に対応した。近年増加傾向にある外国人利用者には、積極的な声掛けなどコミュニケーションを密にし、積極的なサービス提供を行った。	A	○高齢者、障がい者等への利用援助 施設の利用における援助、展示等の理解を促進する事業が実施されている。 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 進捗状況は 60%であるが、冬季企画展開催により評価基準を満たす見込みである。 ○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 外国語のパンフレットや音声ガイドの積極的な案内、特別展での英語表記等、外国人利用者への配慮がなされている。 ◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たす見込みである。また、外国人利用者への配慮では、既存のパンフレット・音声ガイドの活用に加え特別展での英語表記もなされており、外国人の展示への理解促進が積極的に図られている。	A	A	A	

<p>(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇利用者増加のための工夫がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数/開催日数 3回/157日 ○「でかける博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・館外における講演会、講座 42回 ・出張展示 4回 ・出前事業（小中学校）46回 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の受入件数 27回 ・学校教育の発表の場の提供 1回 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・近つ飛鳥ギャラリーの実施 ○多様なニーズに応える事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「入門講座」「土曜講座」の実施 ○「風土記の丘」の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「古墳時代まつり」の実施 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 83,200人 ・館外利用者数 19,850人 ・風土記の丘利用者数 89,400人 <p>【参考】 平成30年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 96,011人 ・館外利用者数 12,104人 ・風土記の丘利用者数 88,767人 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> 3回/157日を開催し、年間では4回/195日を開催予定。 ○「でかける博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 館外における講演会、講座を37回実施。ワークショップを通じた出張展示を13回実施。また他館での出張展示を1回行ったほか、1～2月に大阪府立狭山池博物館で実施予定。出前事業（小中学校）を44回実施した。 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> 小中学校の受入件数 21回、学校教育の発表の場の提供として「古墳の森コンサート」2回を実施した。 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 近つ飛鳥ギャラリーを10回開催し、年度内13回の開催を予定。 ○多様なニーズに応える事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 当館学芸員による入門講座、土曜講座を15回実施（年間21回開催予定）。 ○「風土記の丘」の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> 「古墳時代まつり」を開催し、うめまつり、さくらまつりの開催を予定 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 65,640人 (進捗率 79%、昨年同月比 99%) ・館外利用者数 15,924人 (進捗率 80%、昨年同月比 208%) ・風土記の丘利用者数 64,052 (進捗率 72%、昨年同月比 119%) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> 当初予定にはなかった冬季企画展の開催により、計画を大きく上回る見込みである。 ○「でかける博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況は、「講演会、講座」88%、「出張展示」325%、「出前事業」96%であることから、1項目は既に評価基準を大きく超え、ほか2項目は評価基準を満たす見込みである。 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> 1項目は既に評価基準を超え、ほか1項目は評価基準を満たす見込みである。 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 申込に適切に対応し、府民参加による様々な事業が実施されている。 ○多様なニーズに応える事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 「入門講座」「土曜講座」が継続的に実施されている。 ○「風土記の丘」の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> 「風土記の丘」を活用した様々な事業が実施されている。 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <ul style="list-style-type: none"> いずれも評価基準を満たす見込みである。 	<p>S</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	
--------------------------------	--	---	----------	---	----------	----------	----------	--

	<p>○利用者満足度調査の結果 ・「満足」「やや満足」の割合 90%</p>	<p>○利用者満足度調査の割合 92.6% 参考 春季企画展：88.3%（満足 67.9%） 夏季特別展：93.3%（満足 71.9%） 秋季企画展：96.1%（満足 56.4%）</p> <p>◎自己評価 展覧会の内容や講演、講座のテーマに工夫を凝らして、利用者の幅広い獲得を目指した。また館外事業を通じての講座や各種のイベントなどを通じて広報活動も行い、幅広い年齢層の参加者の増加を図った。入館者数については現状ではほぼ前年度実績に近い。また、世界文化遺産等への登録に伴う注目度アップなどの効果もあり、達成状況はおおむね良好である。ESCO 事業により 12 月の 1 ヶ月間が臨時休館となるが、目標値を達成できる見込みである。</p>		<p>○利用者満足度調査の結果 評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たす見込みである。また、12 月の臨時休館が 1 月以降の利用者数へ影響することが予測される中、企画展や学校教育の発表の場の提供回数を予定より増やすなど、利用者増加につながる事業が行われている。</p>				
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇サービスの向上が図られているか</p> <p>○Web の活用 ・ホームページ更新回数 120 回</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>○れきしウォークの実施 ・実施回数 6 回</p> <p>○解説シートの作成、展示解説の実施</p>	<p>○Web の活用 ホームページ更新回数 72 回のほか、Facebook を 58 回更新した。</p> <p>○館外における資料の活用 7～9 月に府外の博物館で出張展示を実施した。また、ショッピングモールなどを会場とした家族、子供向けイベントにおいてワークショップを開催した（3 回）。</p> <p>○れきしウォークの実施 実施回数 4 回。新たな見学先の開発に努めている。参加希望者は増加傾向である。</p> <p>○解説シートの作成、展示解説の実施 展覧会ごとに解説シートを作成し、配布した。また学芸員による展示解説を 13 回実施した（年間 17 回実施予定）。</p> <p>◎自己評価 Web サイトではこれまでと同様に講座などの実施の案内に努め利用者の役に立つ情報の発信を進めた。近年、人気と注目度の高いれきしウォークについては、内容の充実を図るよう見学先などの開発に努めた。近年人気度の高いショッピングモールなど</p>	A	<p>○ Web の活用 進捗状況は 60%であり評価基準に満たない可能性があるが、Facebook の活用により掲載内容の充実が図られている。</p> <p>○館外における資料の活用 館外での展示やワークショップにより、館蔵資料が広く活用されている。</p> <p>○れきしウォークの実施 評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○解説シートの作成、展示解説の実施 展示への理解の促進につながる解説シートの作成、学芸員による展示解説が実施されている。</p> <p>◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価 Web の活用については評価基準に満たない可能性があるが、Facebook の活用、ワークショップや「れきしウォーク」の新たな場所での実施等、サービス向上を</p>	S	S	A	

		の各種イベントへの参加など、各分野でサービスの向上を図ることができた。よって、本項目に対する達成状況はおおむね良好である。		図る事業が行われていることから、全体として計画どおりの実施状況と評価できる。				
(5) 新しい展示テーマ・運営手法の実行	◇魅力あるテーマ選定、運営手法がとられているか ○ニーズに応えたテーマ設定 ・世界遺産登録を見据え百舌鳥・古市古墳群をテーマとした展示及び関連事業の実施 ○最新の成果の発信 ・スポット展示等による最新情報の発信 開催回数/開催日数 2回/30日	○ニーズに応えたテーマ設定 世界文化遺産登録に合わせ、夏季特別展「百舌鳥・古市古墳群と土師氏」を実施した。 近年夏季に実施した展示会の中では、入場者数日平均が約150%増であった。 ○最新の成果の発信 スポット展示は年度末までに計画。冬季企画展において「歴史発掘おおさか2019」を実施し、最新の発掘調査成果を発信する予定である。 ◎自己評価 大阪初の世界遺産登録というニーズに合わせた魅力あるテーマ設定により、展覧会観覧者の好評を得ることができた。よって、本項目に対する達成状況は良好である。	S	○ニーズに応えたテーマ設定 世界遺産に関連した魅力あるテーマによる展示が実施されている。 ○最新の成果の発信 当初予定にはなかった冬季展(1回/38日)のほか、スポット展示1回を開催予定であることから、開催日数は既に評価基準を超え、開催回数は評価基準を満たす見込みである。 ◎新しい展示テーマ・運営手法の実行にかかる評価 当初予定になかった冬季企画展の開催により最新の成果の発信は計画を上回っていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。	S	S	S	
(6) 他機関等との相互協力	◇提案内容に沿った相互協力がなされているか ○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 ・博物館、大学や研究機関、地方公共団体、民間団体との連携事業の実施20件 ・他機関への資料貸出への対応	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 他館との連携展示1件、民間企業・民間団体との連携による出張講座等2回のほか、地元市町村との連携として各種事業での後援をはじめ、連携講座などの事業を実施した。考古学専攻大学との連携としては古墳の測量実習に協力した。また、地元の大阪芸術大学とはデザイン学科と冬季企画展ポスター等のデザイン制作において連携する予定であり、その他各学科の実習や課題製作において協力した。また、大阪芸術大学のアートサイエンス学科については、講義におけるグループワークの会場として協力をを行い、2月に講義成果の展示を行う予定にしている。また同じく2月に、りそな銀行との連携により出かける博物館講演会を実施予定である。実施16件 他機関への資料の貸出については、所蔵資料・写真72件の依頼に対し166点の貸出となる見込みであ	A	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 連携事業数の進捗状況は80%であり、資料貸出への対応も行われていることから、評価基準を満たす見込みである。	A	B	A	

		る。 ◎自己評価 博物館、民間企業など他機関との協力事業の実施により、博物館活動の周知を進め、活動の幅を広げることができた。よって、本項目に対する達成状況はおおむね良好である。		◎博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携にかかる評価 博物館、大学、地方公共団体、民間団体等、様々な機関との多様な連携事業が実施されているほか、他機関からの資料貸出依頼についても資料の保存状況等にも留意した適切な対応が行われている。				
(7) 施設及び資料の維持管理の内容、的確性	◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か ○施設管理 ・年間計画の策定と適切な実施 ・府が実施する ESCO 事業への協力 ○危機管理 ・マニュアルの徹底・履行 ・訓練の実施 ○定期点検の実施 ・記録簿の作成	○施設管理 指定管理者内の緊密な情報交換のもとに策定された施設管理年間計画に従い、施設管理を行った。冷暖房機器、警報機器、昇降機等において故障が生じた場合、迅速に対応する体制を整えている。本年度は、12月に ESCO 事業の実施が予定され、照明機器更新のため、展示品移動に協力する予定である。所管課をはじめとする関係部署との協議を行っている。 ○危機管理 火災、その他災害の予防および危機事象発生における対応については、台風などの際に危機管理マニュアルを有効に機能させ、臨時休館等を実施した。富田林市消防署河南分署の指導による自衛消防訓練を12月に実施予定。 ○定期点検の実施 施設・設備の保守定期点検を実施し、記録簿を作成した。また、近鉄ビルサービスによる総合ビルメンテナンスの専門的見地から、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案した。 ◎自己評価 施設管理を含め、近鉄ビルサービス、所管課を含め緊密な連絡体制のもと速やかな協議を実施し、適切に対応した。	S	○施設管理 年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。また、緊急を要する災害時や機器等故障時においても、状況の速やかな把握、対応策の提案等、適切な対応がなされている。さらに、ESCO 事業の実施にあたっては、執務室の移動等当初予定にはなかった業務が生じたが、柔軟な対応により協力がなされている。 ○危機管理 危機管理対応マニュアルの徹底により、強風による風土記の丘における倒木等の災害時においても適切な対応がとられている。防災訓練についても適切に実施されている。 ○定期点検の実施 施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされているほか、点検結果を踏まえた適切な修繕方法等の提案がなされている。 ◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価 災害の際の適切かつ迅速な対応、ESCO 事業への協力状況より、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。	A	S	S	

	<p>(8)府施策との整合</p>	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか</p> <p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連遺跡資料の展示数 10 遺跡 <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもファーストデイ」の実施 11 回 <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援が実施されているか</p> <p>◇府民・NPO との協働がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○府民協働による事業の充実 <p>◇環境問題への取り組みがなされているか</p>	<p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <p>夏季特別展を「百舌鳥・古市古墳群と土師氏」として開催し、13 遺跡 192 点の出土品を含む最新の調査研究成果を取り上げた。世界文化遺産推進関連の事業にも積極的に参加している。</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもファーストデイ」の実施 7 回（年間 11 回予定） <p>毎月第 3 土曜日を「こどもファーストデイ」とし、工作を中心としたワークショップを実施した。</p> <p>◇知的障がい者 1 名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。</p> <p>◇府民協働による事業の充実</p> <p>○NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会と協働し、古墳の見学会、講演会などの館外活動を実施、予定している。また、3 月にはNPO 法人や地元の各種団体の協力を得て、さくらまつりを実施予定。</p> <p>◇館内外の清掃、塵芥処理、館内空気環境測定を行い適正に環境を維持している。</p> <p>◎自己評価</p> <p>施設整備・管理については迅速な連絡体制のもと連携して各種管理・補修等を実施した。</p> <p>「こころの再生」府民運動への協力等の提案に沿った事業の推進に努め、子どもとのコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援した。</p> <p>また、就労困難者の雇用によって、行政の福祉化の推進に寄与することができた。</p> <p>地元の NPO 法人とも協働し、博物館活動をより充実することができた。</p>	A	<p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <p>既に評価基準を超えている</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <p>評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施が実施されているか</p> <p>計画どおりの雇用がなされている。</p> <p>◇府民協働による事業の充実</p> <p>NPO 法人と協働した多様な事業が実施されている。</p> <p>◇環境問題への取り組みがなされているか</p> <p>適切に実施されている。</p> <p>◎府施策との整合</p> <p>すべての評価基準を満たしている。また、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力では、特別展やワークショップの実施、府事業への協力、世界遺産登録認定レプリカの展示等、多方面にわたる協力がなされている。</p>	S	S	A	
--	-------------------	--	---	---	--	---	---	---	--

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	H29	H30	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S~C		評価	評価	S~C		
ニさらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	<p>◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映しているか</p> <p>○利用者満足度調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査実施回数3回 	<p>○利用者満足度調査の実施</p> <p>特別展企画展ごとの4回の調査と、常設展示期間中を通じて実施、予定しており、満足、やや満足との回答は割を超えている。アンケートの声を反映し、館外等の案内表示等を新規に設置して、来館者等の便宜を図った他、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に伴って、ロビーに百舌鳥・古市古墳群の紹介コーナーを仮設置した。</p> <p>◎自己評価</p> <p>立地や施設の構造を除くと、比較的良好な満足度を維持している。また頂いたさまざまな意見には、迅速に対応する方向で協議・実施に努めている。よって、利用者満足度調査等に対する達成状況は良好である。</p>	A	<p>○利用者満足度調査の実施</p> <p>3月までに計4回の実施が予定されており、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者満足度調査等</p> <p>評価基準を満たしている。また、実施ごとに結果のまとめ・分析・共有がなされ、利用者の意見を反映した管理・運営の改善につながっている。</p>	A	A	A	
	(2)その他創意工夫	<p>◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか</p>	<p>◇世界文化遺産への登録等に伴うメディア等の照会や撮影等に積極的に協力し、世界文化遺産としての百舌鳥・古市古墳群や古墳文化の積極的な紹介に努めた。夏季特別展に合わせて百舌鳥・古市古墳群所在の地元教育委員会等と連携して子供向けワークショップを開催した。府内博物館・資料館との協力や大学・民間事業者との連携によるワークショップ等、新規事業の開拓を進めている。</p> <p>◎自己評価</p> <p>世界文化遺産への登録が決定した本年度は、テレビ番組等のメディアへの露出の高い状況が続いている。こうした状況に対応して、世界文化遺産の価値を紹介するイベントや出前講座などにおいてあらたなスタイルの取組みを行った。</p>	A	<p>世界遺産関連事業の実施、世界遺産関連取材等への積極的な対応による広報、民間事業者との連携によるショッピングモールでのワークショップ実施等、新たな取組みが行われている。</p> <p>◎その他創意工夫</p> <p>世界遺産登録を見据えた事業展開や登録を受けての積極的な広報、事業の連携先や実施場所の新規開拓等、新たな来館者を呼び込む取組みがなされており、計画どおりの実施状況と評価できる。</p>	A	A	A	

目 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	◇事業収支について、計画どおりに実施されているか	◇予算の範囲内で効果的かつ効率的な事業運営をおこなうための事業計画を立案し、かつ、予算支出にあたっては費用対効果を勘案しつつ、比較見積りでの経費節減等を行いながら、最小経費で執行した。 ◎自己評価 予算の範囲内で効果的な事業計画を策定し、その執行に当たっては経費節減に留意し収入・支出のバランスの取れた事業を進めることができた。 収支計画（11月補正予算） 収入 大阪府委託費 135,367,000円 入館料他収入 5,481,000円 計 140,848,000円 支出 施設維持管理費 49,298,000円 人件費他 91,186,000円 計 140,848,000円 よって収支のバランスがとれている。	A	予算の範囲内で事業運営がなされる見込みである。 ◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度 経費削減に取り組みながら、予算の範囲内で充実した事業が実施されており、評価基準を満たす見込みである。	A	A	A	
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか ◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか	◇提案に沿った人員を博物館に配置し、事業計画に沿って適切に事業を実施した。 ◇大阪府文化財センター本部における幹部会議、博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議（いずれも月1回）及び博物館内連絡調整会議（週1回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な指導・管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行った。 ◎自己評価 博物館の運営を効率的に進めるために必要な職員を、博物館と本部に配置し、適正な管理監督体制・責任体制を維持しながら、適切に事業が実施できた。	A	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 適切な人員配置により、充実した事業実施がなされている。 ◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 関係者間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。 ◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価 必要な人員の配置による確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。	A	A	A	
	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	◇法人の財務状況は適切か	【大阪府文化財センター】 大阪府内の発掘調査の受託事業や博物館の管理運営を、スリムな組織体制と経費節減の徹底により	A	大阪文化財センター、近鉄ビルサービスとも、収入や売上高の著しい減少はみとめられず、借入金もない。	A	A	A	

		<p>安定的に経営している。</p> <p>平成 30 年度事業収入 866,894 千円 平成 30 年度事業活動収入 934,393 千円 平成 30 年度法人の基本財産 116,700 千円 平成 30 年度正味財産期末残高 1,511,083 千円</p> <p>借入金なし</p> <p>【近鉄ビルサービス】 近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに徹底したコスト削減により安定的収益を維持している。</p> <p>平成 30 年度売上額 20,855,535 千円 平成 30 年度純利益 676,211 千円 借入金なし</p> <p>◎自己評価 両法人ともに経営規模・事業規模・組織規模及び財務状況において、博物館の安定経営が可能となる体制を維持した。</p>	<p>また、近鉄グループホールディングス株式会社についても大きな変動はみとめられない。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価 グループの各構成員、構成員の親会社とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。</p>				
--	--	--	--	--	--	--	--

※評価の基準：評価は下記の4段階評価とする

S：計画を上回る優良な実施状況 A：計画どおりの良好な実施状況 B：計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況 C：改善を要する実施状況